

寺報 善巧

発行

〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
☎宇奈月(07656)(5)-0055

一月十三日より十六日まで
御正忌報恩講
布教 当山若院

寺
ごよみ

一月

一日 元旦会 年頭参り

三日 うらやま日校かるた会

四日 栗虫御助成

七日 善巧寺婦人会新年会

九日 栗虫報恩講

御正忌報恩講

一三日 連夜 午後一時

一四日 連夜 午後一時

一五日 日校の集い 午前十時

▽お講(下村) 午前十一時半

▽連夜 午後一時

▽初夜 午後七時(下立愛本・

栃屋・下村・浦山のおつとめ

勉強会の方々は是非おまいり

しましよう)

一六日 晨朝 午前七時

▽幻灯と法話 午前九時十時半

▽お講(栃屋・熊野・浦山)

午前十一時半▽講座 午後一時

三〇日 浦山報恩講



新年お目出度う。新しい年を迎えて、来し方をふりかえる人もいるでしょう。未来への展望に心はげむ人もいます。

年寄り、どうしても思い出にふけり勝ちだし、若者は、来るべき幸せを願う筈です。善巧寺にも新しい年がめぐって来しました。

家族一同、お蔭で、健やかに、新年を迎えようとしています。家族合計七名。平均年齢は三十

一才です。皆様の善巧寺も、日に日に、若く新しくなっ

て居ります。成る程、住職は明治生まれですが、その

精神は、若者に決して負けない逞ましさを。

宗門の発展は、若い新しい精神を必要とするのです。

一九八〇年を迎えて、世界も日本も新しく生まれ変わ

らねばなりません。

善巧寺は、浄土真宗、本派本願寺の末寺です。その

本願寺も、今年は、新しく生まれ変わる年に当たって

ます。伝灯奉告法要が、昭和五十

五年四月一日から、京都本願寺両

堂に於て、勤修されるのです。若い新しい門主によって、未曾有の

盛儀が盛大に行われるのです。門徒の皆様と御一緒に、御本山にお

詣りしようにありませんか。昭和五十二年四月一日龍谷門主釈即

如として、法統継承に際しての消息」

の中で、次のように仰言っています。

新しい年、新しい心

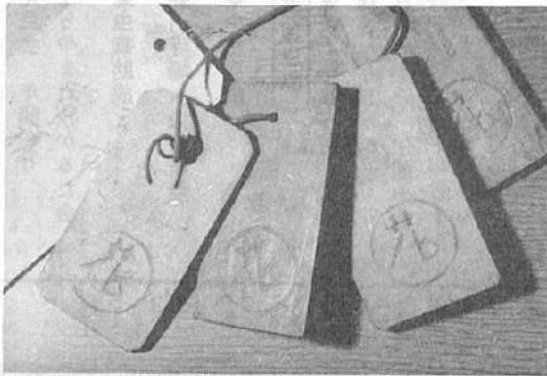
「先代門主も、ともすれば形式に流されようとしている宗門の姿をしはしばしば指摘されています。現今の宗門の運動はその意を体したものであると思います。今後一層積極的に進めようではありませんか。そのためには一人一人が宗門の存在意義を自覚し開法者としての姿勢をたもち、ともに手を取り歩まねばなりません。そこに現代社会に向って開かれた宗門が確立されることと思います。」

現代社会と云う新しい言葉が、御門主の御消息の中に見られるのも、若い御門主が、現代社会に生きて居られる証拠です。皆さんの善巧寺も、現代社会に向って開かれた善巧寺でなくてはなりません。

そのためにこそ、私達住職一家も、新年の賀の言葉を新しい心で申し述べるのです。最後に昭和五十三年一月十六日に下された「伝灯奉告法要」についての消息から引用致します。

「宗祖親鸞聖人によって開顕された浄土真宗は時と処を選ばず私達に真実の救いを与えてくださるみ教であります。ことに科学技術の発展と複雑化する社会の動きに目を奪われている現代の私達にとって失われつつある真実の自己を回復するための拠り所となるものであります。」

明教院僧鎔師と空華廬(四)



空華門人の木札

諸国の末弟

およそ三千人に満たんと欲す

居敬師、玉振師、濯纓師は能化職廃止後しばらく続いた代講時代それぞれ代講者として学校の安居に講義しております。僧周師は僧鎔師の法嗣で善巧寺の十二

代を継がれた方です。

行忠師は、文政八年に勸学職の下に司教、助教、得業の学階が設けられた時の選考委員の一人で、学林の看護も二度、その他各会、春冬の講者等をつとめています。これ等の学匠達は又、それぞれ門弟の養成に力を注がれたので、やがて「今世にある諸国の末弟、およそ三千人に満たんと欲す」(『先哲遺事』)とされるようになっていきました。僧鎔師は天明三年、六十一歳でお亡くなりになりました。

現在、本堂の前に建っている僧鎔師の石碑は、今から約一四〇年程前の天保十二年に門弟の行忠が願主となって建立したものです。この行忠師というのは、私の寺の十七代住職で、僧鎔師育ての親霊潭師の曾孫に当たります。僧鎔師歿行五十八年にもなると、たくさん居た門弟も生き残っている者僅か



行忠師が描かれた明教院の墓の設計図

空華と



明教院僧鎔師伝

上市・明光寺土井了宗師

最後に、この空華廬で育った僧鎔師のお弟子達についてふれることにします。

門弟の中で代表的な方は、柔遠、道隠、杳旭、慧航、居敬、明増、玉振、僧周、僧鎔、勿照、慧訓、濯纓、行忠等の諸師です。

この内、柔遠師、道隠師の二人は空華廬を代表する学匠で、それぞれ越中空華、堺空華の祖と仰がれ、師の僧鎔師と合わせ、空華三師と称されています。

杳旭師と慧航師は、勸学職の制度が出来た文政七年に最初の勸学(七名)として推挙された方々です。この時には僧鎔師の孫弟性海師、玄肅師(共に道隠の弟子)も一緒に選ばれていますから、実に七名中四名までが僧鎔師の空華廬の流れをくむ学匠であったわけです。



善巧寺のシンボル「僧鎔の墓」は今から約140年前に建てられた。

二名、内一人は病の床に伏しており、健在なのは行忠師ただ一人という有り様でした。それで、この行忠師が中心になって碑を建てることになったわけです。そして、建立とともに、一人でも僧鎔師の遺弟が残っている内ということ

寺
こよみ
二月
一日 お講 浦山
二日 浦山お経の会
四日 婦人会
五日 三日市報恩講
六日 壮年会
九日 雪ん子劇団練習会
十一日 雪ん子劇団練習会
十二日 生地報恩講
十三日 お講 下立▽お経会▽音沢御助成(一七七日)
十八日 雪ん子劇団練習会
十九日 下立報恩講
二十日 舟見報恩講
二十四日 うらやま日曜学校
二十五日 雪ん子劇団練習会
二十六日 泊・入善報恩講
二十九日 析屋・熊野報恩講

善巧寺門徒年忌一覽

- (一周忌) 島田勲(母、1・18)
福沢順七(母、1・23) 佐々木岩松(1・27) 浦山弘(母、2・8) 開沢信義(2・13) 佐々木貞義(3・4) 橋場東作(母、3・7) 開沢權作(3・11) 中村石次郎(3・23) 佐々木安正(母、5・2) 野畑市右工門(5・19) 大浦力次郎(6・3) 川内幸七(母、6・7) 谷口輝夫(妻、6・8) 根塚三郎(6・9) 川瀬松(6・12) 佐々木新九郎(妻、6・13) 慇義孝(妻、6・22) 河村義和(母、6・28) 柄沢勇悦(7・10) 浦田甚作(妻、7・21) 佐々木宗太郎(7・27) 根岸清二郎(8・2) 野島義春(弟、8・9) 大藪武男(妻、8・25) 岡田猪作(母、8・29) 上坂伊作(10・7) 開沢茂母、11・19) 沢田理作(11・19) 森岡榮一(母、11・25) 谷口義松(母、12・17)
- (三回忌) 浦山久次(1・8) 新保久夫(1・10) 佐々木隆人(母、1・24) 柄沢良雄(母、1・29) 中林要作(2・4) 橘日出夫(母、2・17) 佐々木林(母、2・18) 大藪助雄(妻、3・3) 橋爪榮作(3・31) 岩崎作郎(4・21) 鬼原次郎助(妻、4・26) 中村慶一(母、5・2) 島田久成(妻、5・8) 島田うた(7・18) 新保林作(母、8・2) 佐々木武和(母、8・3) 朝倉保(8・30) 丸田甚吾(母、10・20) 大浦政男(長男、11・24) 們清吾(12・4) 島健二(12・29)
- (七回忌) 島田拾次(1・18) 鬼原要造(母、1・8) 谷川彦平(2・23) 川原榮作(2・23) 川内竹次郎(2・28) 們直一(次男、3・10) 新保祐七(3・25) 大藪忠一(4・6) 西中和男(4・7) 谷口源作(母、4・30) 新保榮一(母、5・4) 谷口吉次郎(母、5・12) 長沢幸一(母、5・21) 柄沢才吉(6・12) 松平源治(母、6・21) 佐々木三作(6・19) 根塚利雄(6・26) 佐々木ふじ(6・29) 中坂由松(孫、7・8) 川内由太(妻、8・16) 中村吉平(8・22) 山根仁三郎(10・11) 丸田浅吉(10・13) 川内善作(11・5) 鬼原文二(孫、11・6) 本波秀三(11・8) 丸田秀吉(12・10)
- (十三回忌) 島田周一(1・7) 佐々木勝信(母、1・21) 佐々木伊吉(1・23) 浦滝忠次郎(2・15) 谷口さと(2・21) 野崎新作(3・26) 尾村豊(母、4・12) 中坂一郎(母、4・15) 大藪孝之助(妻、4・17) 中村吉平(女、4・17) 開沢豊二(次男、4・30) 佐々木清六(孫、5・14) 有馬祐和(5・16) 佐々木仁太一(5・23) 西中嘉藤(6・17) 藤沢修雄(6・22) 野村勇(6・22) 丸田一夫(7・14) 川内武次郎(次男、7・20) 佐々木弥左工門(8・21) 川内善四郎(9・29) 鬼原長之助(父、10・19) 西中正一(母、10・22) 嶋田久雄(妻、10・26) 鬼原長之助(長男、10・26) 川内次郎七(祖母、10・29) 大藪長造(11・14) 板川松造(12・1) 板川小次郎(12・9) 谷口豊作(12・30)
- (十七回忌) 丸田元作(1・10) 川内虎吉(妻、1・15) 橘常由母、2・25) 開沢泰久(母、2・27) 川内彦平(3・10) 島田竹次郎(4・22) 大浦己之次郎(4・30) 大島清次郎(5・18) 大浦力次郎(妻、6・9) 橘覚次郎(7・6) 川内虎吉(8・23) 佐々木弥十八(8・29) 鬼原勇吉(母、9・11) 野畑市右工門(妻、9・16) 開沢盛良(9・22) 丸田次郎助(9・23) 川内榮次郎(10・5) 藤沢浅二郎(10・16) 丸田正良(10・18) 佐々木宗吉(10・28) 板川中和(11・17) 清水仁作(11・17) 瀬川久作(母、12・13) 野崎吉久(母、12・17) 鬼原信義(12・22)
- (二十三回忌) 佐々木仁吉(孫、2・28) 中村秋義(妻、3・25) 佐々木仁太一(四女、4・28) 谷川六左工門(主、4・30) 谷口榮太郎(6・6) 佐々木清松(6・8) 浦田繁松(6・16) 中村宇之助(6・30) 佐々木貞次郎(7・6) 島田次平(7・13) 佐々木七造(妻、7・15) 佐々木孝右工門(7・25) 高島孝作(父、8・7) 中村市次郎(三女、8・18) 岡田岩次郎(妻、9・5) 大藪助雄(母、9・20) 中坂源十郎(10・19) 谷川六左工門(妻、10・21) 谷川長吉(10・22) 沢木武男(長女、10・27) 浦滝善作(妻、10・30) 柄沢平助(主、11・1) 山根清右工門(孫、11・31) 橘忠助(12・7)
- (二十七回忌) 佐々木石松(母、1・6) 佐々木外一(三女、1・6) 野崎邦宏(二男、1・22) 佐々木七造(母、2・20) 佐々木林(二男、2・21) 板川精一(3・6) 島田幸次郎(妻、3・11) 大島吉郎(母、3・17) 佐々木幸次郎(3・17) 板川德次郎(4・2) 西中章(4・10) 福沢作次郎(姉、6・2) 谷口源太郎(長男、6・25) 佐々木文作(妻、7・4) 河村宗八(長男、7・12) 鬼原龜次郎(五男、7・19) 清水榮次郎(妻、8・9) 上坂長造(三男、8・10) 大浦幸吉(三男、8・10) 佐々木虎治郎(8・10) 川内七之助(8・16) 野村松之助(9・15) 們良造(9・29) 中村三太郎(妻、10・27) 佐々木音松(12・21) 川瀬恭一(父、12・27)
- (三十三回忌) 沢田五三郎(孫、1・7) 谷口源次郎(四男、1・9) 大藪伊左次郎(妻、1・10) 森岡辰次郎(孫、1・19) 板倉太助(主、1・29) 嶋田安次(2・7) 板川得雄(孫、2・9) 鬼原秀雄(四男、2・14) 大藪良造(長男、2・15) 川瀬幸吉(妻、2・19) 鬼原長助(孫、3・7) 川口九郎助(長男、3・27) 橘常由長女、3・27) 上野一雄(父、4・17) 橘早次郎(長女、4・29) 橋爪勇吉(妻、5・12) 高島定次郎(5・14) 佐々木貞治(6・4) 大藪森吉(長男、6・6) 佐々木太郎吉子、6・19) 鬼原辰右工門(6・19) 根岸林次郎(6・28) 開沢龜次郎(妻、7・5) 西田由広(長男、8・3) 中林豊次(8・7) 川口清吉(妻、8・15) 山本一永(父、8・24) 橘清治(四女、9・4) 橋爪市次郎(五男、9・12) 本波喜太郎(妻、9・14) 板谷庄一(長女、9・9) 佐々木八十八(8・24) 佐々木竹次郎(三女、9・29) 山本外次郎(妻、10・7) 板宗之助(10・8) 板川繁次郎(母、10・13) 板川源之助(10・15) 佐々木七造(10・28) 福沢作次郎(母、11・4) 開沢榮作(二女、11・14) 高島市太郎(母、11・15) 沢田宗信(11・20) 谷口吉佐男(11・30) 根塚仁八(七女、12・5) 島田久作(妻、12・22) 藤沢善作(長男、12・23)
- (五十回忌) 佐々木与三三郎(1・28) 福沢喜一(1・31) 谷川米作(二男、2・5) 柄沢源次郎(2・20) 二口榮之助(2・25) 橘新三郎(母、2・28) 川瀬八郎(妻、3・9) 新保庄右工門(母、3・22) 久田久次郎(3・24) 本波由次郎(4・3) 中山力次郎(4・15) 瀬川榮吉(母、4・16) 二口仁右工門(母、5・31) 板倉勇次郎(5・31) 川瀬八郎(6・4) 橋本辰次郎(母、6・6) 佐々木次郎右工門(母、6・28) 佐々木次郎吉(母、6・30) 川原善三郎(妻、7・12) 川内義丸(四男、7・19) 谷口新左工門(弟、7・19) 朝倉浅右工門(7・31) 福沢宇之次郎(四女、8・28) 高松義敬(長女、9・7) 岩崎久次郎(10・5) 橋場宇之(長男、10・5) 岡島忠左工門(10・7) 佐々木八十八(長男、10・24) 川原善助(母、10・27) 沢田宇之助(10・28) 鬼原辰右工門(弟、10・12) 柄沢平三郎(長男、11・4) 橘常次郎(四男、11・13) 開沢良造(孫、11・16) 佐々木経義(長男、11・21) 朝倉竹次郎(母、11・29) 佐々木竹次郎(四男、12・13)
- (百回忌) 佐々木助七(1・11) 清水小三郎(母、1・23) 丸田六右工門(女、1・27) 山本四郎左工門(妻、2・13) 福沢宇右工門(母、2・24) 大浦九郎右工門(母、2・28) 佐々木德次郎(長男、3・24) 佐々木市助(6・19) 大島与三郎(6・21) 鬼原六右工門(母、7・12) 山片浅右工門(8・2) 嶋田清五郎(長男、8・6) 谷川作之丞(妻、8・11) 樽井五三郎(長男、8・17) 中坂宗助(孫、8・28) 嶋田清五郎(9・19) 佐々木弥三八(9・22) 山本浅右工門(三男、9・30) 佐々木三郎右工門(10・17) 三日市宇右工門(10・18) 岡田助左工門(11・4) 森岡安兵衛(12・1) 川内小左工門(妻、12・24) 鬼原次郎左工門(12・25)



あけまして
おめでとうございませう
今年もよろしくお願ひいたします

善巧寺ファミリー一同



雪山 俊之
善巧寺住職 68歳

妻作る杖に縋りて 冬の窓

—— 昨年のお正月は、病氣療養と
いうことで、身も心もやせ細った
感じでありましたが、一年間の節
制のおかげで、今年はすっかり本
調子。一寸不自由になった左足を
かばって、ステッキをつきながら
も、富大、女子短大、魚津地裁(調
停委員) ロータークラブ、富山
市民大学、そして講演にと、精力
的に動き、富山文化人健在といっ
たところ。

正信偈

標とか。

家にあつては、孫といわずらる
するのが一番の楽しみとか、そこ
で一句——。



雪山 隆弘
善巧寺若院 39歳

寺に入つて丸五年。あの世話方
の野畑市右エ門さんが元氣な折に
「エカツタ、エカツタ、ウチの若
ハン、帰つて来ても、コタツにじ
いとしておつたらどうしようか
と思つたら、内に外にとお声
がかかつて、けっこうでありまし
た。」といつていましたが、本当に
そうでありまして、休む間もなく
講演に飛び歩き、寺では多くの会
をつくり、明るい寺づくりになん
ばっています。

今年「お茶の間説法」の続編
を出版すること、水切りのよい
茶道具を創ること、そしてまたた
くさんのお友達をつくることが目
標とか。



高島 有哲
法輪寺住職 37歳

法輪寺は享保年間(一七二〇年
頃)から四代つづき、そのあとの
五代目が明教院を師として剃髪得
度し、堂宇を建立しこれを第一世
としています。今の住職は第九世
で、根っからの浦山つ子。ユーテ
ツチャンと老若問わず親しまれて
います。



神子 勉
照行寺住職 46歳

古い方からよく「ジュンドサン」
と呼ばれることがあります。これ
は照行寺の初代が栃屋の野畑家の
出で、法名を「順道」といったか
らでしょう。



高島 祥子
法輪寺坊守 37歳

昨年は住職と力を合わせて、家
の普請を行い、先代の法事も無事
につとめることができ、ホッとひ
と息。



神子 久美子
照行寺坊守 40歳

いつも笑顔をとやさず。昨年夏、
クルマの免許を取りました。若葉
のマークをつけて目下猛練習の真
最中。今年はいんと腕をみがいて、
住職と門徒のお宅へも出かけられ
ることでしよう。



神子 真(男) 長17歳
今年を受験
勉強の年。
2年 勉強の年。
神子 真(男) 長17歳
今年を受験
勉強の年。
2年 勉強の年。

やしたバレーボール部ともさよな



高島 ひとみ
12歳 宇奈月
学的一年生
はじめは母
親ゆずり、
卓球部。し



高島 奈緒子
7歳 浦山小学
校の二年生
でもまだま
だチビちゃ
んで、ラン



神子 巧(次男) 16才
野球部の
正選手。セ
ンターを守
つて張切つ
ています。



神子 英 11歳
浦山小学
年の人気者
はがらかな
のはお母さ
んゆずり。

自作の童話発表で「あつちゃんの
三日坊主」で優秀賞。日曜学校の
リーダーも、今年は中学校へ。



雪山喜子
善巧寺坊守 61才

一昨年十一月、住職の発病以来坊守から看護婦さんに変身。食事療法から、投薬の世話、そして出かけるときのつき添いに、たいへん苦労でした。でもその効あつていまはホッとひと息。趣味の書道や墨絵、花作りにも親しむ時間が出来たようです。

ところで今年は、伝灯奉告法要の年、黒西組寺族仏教婦人会会長として、また、いそがしい年になりそうです。



雪山玲子
若坊守 37才

寺の若坊守として、若院の秘書として、三児の母として、一人三役の働きをしながらも、数年前からはじめた本山の通信教育や、若院の説教、婦人会の勉強会などで学んだことを、折にふれて、門徒の方と語り合い、わが子にもそれを伝えてゆこうと努力しています。

今年は「雪ん子劇団」に全力を注ぎ表現力豊かな、心豊かなこともを育ててゆくことが夢のようです。



雪山有花
長女 11才
(浦山小5年)

とにかく走りまわって遊ぶ毎日、いつになつたら少女らしい落着きができるのかと周囲の大人を心配させています。雪ん子劇団の練習が楽しみで三月の初公演を控えてはり切っています。自分から思いたって始めたピアノのおけいこも、時には苦痛になっていますが、それでも結構むつかしい譜面も読める様になり、これまた三月の発表会めざしてトキタマ練習しています。



雪山俊隆
長男 6才

小作りの顔にやせた体で一見ひよわそうに見えますが、保育所でも最強グループに加わりみごとに浦山弁を駆使してあばれています。反面、非常に神経質で、理想主義完璧主義ゆえに、自分の実力以上の事に取り組んでは自分の腕の未熟さを嘆き悲しんでいます。僕の名前はおじいちゃんと同じ字があるからと勉強にも余念がありません。お正信偈も上手になりました。



雪山教隆
次男 5才

末っ子の特権で甘える時間が一番多く、姉、兄を羨ましがらせています。お友達達の男の子にも女の子にも優しくできるのはそのせいでしょうか、一つ違いの兄に何とか追いつこうとする努力は大変なもので、自転車、縄とび、読書などせいいばいの背のびです。週に一度の姉弟でのおやつ作りにも熱心で父親ゆずりの器用さで、粉やバターをこねています。

十二月一日 晴 下立・愛本お講

うっかり寝過ぎ枕もとの時計は九時を廻っている。窓越しに人声がする。鉄筋の建物のコンクリの屋根で、お講当番のお婆さん二、三人が、落ちた銀杏の実を拾っている。二本の銀杏樹の中で、実のなる方の葉は殆んど散り尽し、もう一本の本堂前の老樹は、今が盛りの真黄色である。しばらく婆さん達と無駄話。去年の今頃は未だ病後の不自由な軀だったが、お蔭で今は健康に復した。お目出度うと心から悦んでくれる婆さんたち。有難うと答える。洗面、朝食を終って、書斎に入る。庭のすみじが美しい。羅漢樹の雪囲いにも、いづれ、庭師が来てくれる段取りになっている。

貫一さんが、箒をもって掃除に

来る。先日の風で落ちた杉の枯葉で庭一面醜く散らかっている。何時も変らぬ貫一さんの律義な姿に心打たれる思い。例によってお講のおつとめ。参詣者一同と正信偈。終つて、お説教。昼食は、お講当番の心づくしの煮物。酢の物。味噌汁。終つて、法輪寺、照行寺を従へて、三日市の法要。此処の教員住宅は、部屋部屋いつも小綺麗に整頓されて気持ちがいい。法要参加者十数名。亡母の年忌法要である。夫妻とも教員で共に絵筆に親しんで居られる。「鯉の図」と「編みものをして居る婦人の図」

住職日記



が額にかけられている。御馳走になつて車に乗ると、パラパラと時雨が窓を打っている。就床十時。十二月二日 曇 八時四十分の電車に乗る。電鉄富山着九時五十分。堤防廻り八尾行のバスに乗り聞名寺着十時半。先住二十三回忌。先住は、妻の兄也。久しぶりの親せき、江州から、福井から、東京から集まる。夫々の子供達は、知らぬ間に、高校生、中学生になつて居る。本堂は門徒で満堂。荘厳な読経。中でも小学生の若院の衣姿が目立つ。午後一時から太子堂遷仏法要。八尾町道の拡張工事で、聞名寺太子堂が移転されることは新聞記事

を通じて知っていたが、太子の像は、このたび始めて拝する。等身大の木彫で、尊顔は童児ではないが、ふつくらとした慈顔。住職の導師で法要も滞りなく終り、新築の御殿で一同お齊につく。唐紙に美事な竹の絵あり。丸木位里の作と聞く。幸いに入善迄帰る車に同乗させて貰う。八尾から上市路は初めて通る道。夕暮の向うに見える立山連山の雪を冠る姿の美しさ。帰院六時。孫達のはじやぐ声に聞える。書斎に入つて明日の市民大学の講義の予習。就床十一時。

境内は 銀杏紅葉の 明り哉
大根刻む女衆の声 寺御講
三〇日 日曜学校終了式
初公演
二五日 富山日校大会雪ん子劇団
二〇日 三法要理事会
一七日 雪ん子劇団
一六日 お講 析沢
一五日 浦山お経の会
一四日 雪ん子劇団
一三日 太子会 年に一度の聖徳太子のご法事です。善巧寺門徒の建設関係者と総代さんは是非お参り下さい。なお法要終了後寺の第二期建設事業の話し合いも行います。会費 千円。
一〇日 雪ん子劇団
八日 壮年会
三日 雪ん子劇団 婦人会
一日 お講 浦山 お経の会

寺

三月

ことばの教室雪ん子劇団誕生!!

三月に初公演



お寺にまた一つ、面白いグループが出来ました。こどもたちが表現力豊かに、心豊かに育つようにとの願いを

こめて発足した「ことばの教室・雪ん子劇団」です。この劇団は、町の教育委員会と公民館の後援をいただき、青少年の健全育成をめざすもので、これまで、宇奈月町では、だれも手がけなかったユニークな「ことばの教室」です。練習は毎週月曜日の午後、顔の体操、目の体操、アゴの体操、口の体操、それにことばの体操とレッスンがつづき、最後はみんなでも劇を読み合います。

指導はもちろん、この道十五年のキャリアの持ち主若院と、アナウンサーの経験のある若坊守。

ひとこと説法

一年の計

一九八〇年、昭和五十五年の夜明け——みなさんは、どのような心で、この新年を迎えられたことでしょうか。

それぞれがそれぞれに、今年こそ、と心に誓い、念じられたことが沢山あるかと思えます。

ところで、その願いであります。が、願いたいものには、行いがともなわないと、なにも成就はいけません。はつきり申しまして、その願いを、どこかのだれかにた

のむこと——それは、責任転嫁であります。見上げたものではありません。そこには自分の精進努力するという心が抜けてしまっています。もし「祈合格」などどこかへ行くヒマがあったら、その分自分で勉強した方がいいのです。仏法はそれを教えているのです。交通安全にお守りはいいですね。頼りになるのは、自分の技術なのです。日吉凶はありません。今日一日は私にとっては永久に返って来ない、かけがえのない一日なのです。一年の計を立てられる折に、このことをよくハラに入れておいていただきたいのです。

練習はかなりきびしいものです。が、こどもたちは元気いっぱい。そして、三月にはすでに富山本願寺で第一回の公演を行うことも

が、こどもたちは元気いっぱい。そして、三月にはすでに富山本願寺で第一回の公演を行うことも

私は誰でしょう？

この写真にうつっているかわいなお稚児さんは、いったい誰でしょう？ 先日報恩講廻りで、



中ノ口へ伺ったとき、橋場としゑさんが見せて下さったもので、長男の兵衛さんが三つのおとき、(昭和10年11月6日)明教院百五十回忌が勧められ、その折に撮った記念写真だそうです。その橋場兵衛さん、いまは宇奈月小学校の先生ですが、覚えていらっしゃるでしょうか？

春の聞法旅行

伝灯奉告・六月一日
法要団参

今年には京都、本山で伝灯奉告法要があり、富山からは六月一日に団体参拝いたします。全国から、三十六万人の参拝者が集まろうというこの大法要に、どうかふるってご参加下さい。

なお費用は三万二千元。二泊三日の予定です。

本決まり。さらには八月の中央公民館落成記念にも出演交渉が来ております。「雪ん子劇団」の今年の活躍にご期待下さい。

合掌

新年早々めでたい話を——

よく聞かれることなのですが、善巧寺ができて何年ほどたつのか御堂が建つてどれぐらいたつのか過去帳をくつておりましたら、善巧寺の開基は今年でさつと五百年。そして、御堂はちょうど百年目です。

寺は五百年、御堂は百歳、あふれる念仏末代までも——とまいりたいものであります。

◎ 善巧寺ファミリーたいだい十六人——法輪寺、照行寺も合わせて一人一人の近況を報告させていたできました。

寺はお念仏の生きた場所です。浄土真宗の生活信条にあるごとく「み仏の恵みを喜び、互にうやまい助けあい、社会のために尽くします」と、努力してゆきたいものであります。

本年も どうぞ よろしく お願いいたします。

善巧寺の常例行事

お日曜学校	お雪ん子劇団	お婦人會	お経の會
毎月 一日・十六日	毎月 第四日曜日	毎月 第二土曜日	毎月 第一・第三土曜日
毎月 第四日曜日	毎月 第二土曜日	毎月 第一・第三土曜日	
毎月 第二土曜日	毎月 第一・第三土曜日		
毎月 第一・第三土曜日			

